

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/12/05

トランプ相場の光と影

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	↑	リスクも無視はできない? 予想レンジ: 81.000 ~ 88.000 円	2-3
<a href="#">NZドル/円</a>	→	反動安に注意 予想レンジ: 77.500 ~ 83.500 円	4-5
<a href="#">ランド/円</a>	↑	週足チャートは上昇示唆 予想レンジ: 7.600 ~ 9.000 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



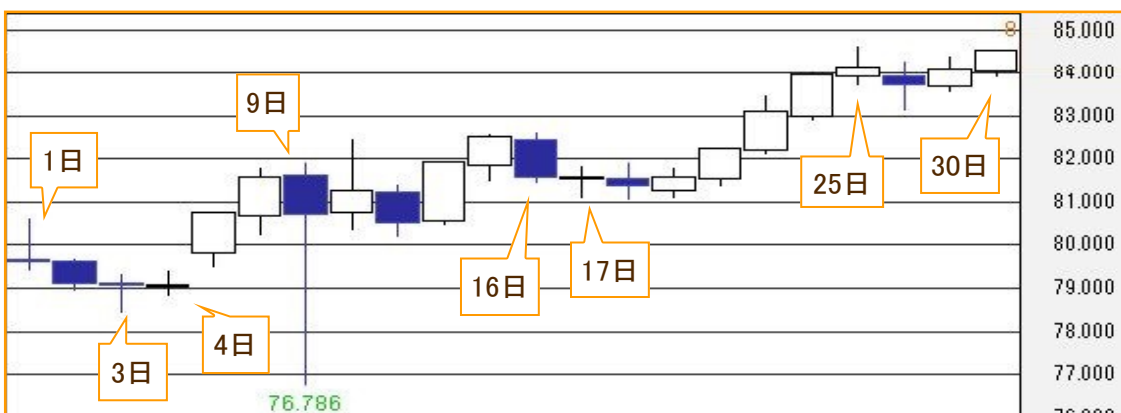
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 11月の推移

AUD/JPY

11月の豪ドル/円は、76.786~84.618円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.0%の大幅な上昇(豪ドル高・円安)となった。なお、25日に付けた84.618円は4月28日以来、約7カ月ぶりの高値。もともと11月の豪ドルは、米ドルや英ポンドに対して下落(対ユーロでは上昇)するなどマチマチの展開であり、豪ドル/円の上昇は専ら円安が主導した事になる。米大統領選で大方の予想に反してトランプ候補が勝利した事を受けて、先進国で予想外の株高が進んだため、円売りが活発化した。またトランプ次期米大統領の財政拡張的な公約を意識して世界的に長期金利が上昇する中、日本だけは日銀の「イールドカーブコントロール」によって10年債利回りが0%近傍に維持された結果、豪・日金利差が拡大(10年債利回り格差は月初の2.4%程度から月末には2.8%程度まで拡大)した事も円売り・豪ドル買いを促したと考えられる。



## 四本値

OPEN	79.689
HIGH	84.618
LOW	76.786
CLOSE	84.520

1日	豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置き(1.50%)を決定。声明で「一部の住宅価格が過去数カ月にわたって急速に上昇している」「今後1年間に経済は潜在成長率に近い水準で拡大する見通しで、その後徐々に成長ペースは加速していく。インフレは今後2年間に徐々に上向き見込み」などが明らかとなった。これを受けて追加緩和観測が後退すると、豪ドル買いが強まった。しかし、NY市場に入ると、「米大統領選支持率でトランプ氏がクリントン氏をリード」との報道を嫌気して米国株が下落したため円買いが優勢となり豪ドル/円は上げ幅を全て吐き出した。
3日	豪9月貿易収支は12.27億豪ドルの赤字と予想(17.00億豪ドルの赤字)を上回った。
4日	豪9月小売売上高は前月比+0.6%と予想(+0.4%)を上回る伸びとなった。また、RBA四半期金融政策報告では、2016年第4四半期のインフレ見通しを1.5%、17年の第2・第4四半期は1.5-2.5%と前回8月時点から据え置いた一方、「インフレ率は当面安定、次第に上昇高める」との見通しを示した。
9日	前日に投票が行われた米大統領選の開票が進み、共和党のトランプ候補の優勢が伝えられると日経平均株価が一時1000円超下落。リスク回避の円買い・豪ドル売りが強まると76.786円の安値を付けた。ところが、トランプ候補が選挙戦で見せた暴言を封印して大統領然とした勝利演説を行うとムードが一変。演説で大型のインフラ投資に言及した事もあって欧米株価が反発する中で豪ドル買い・円売りに転換し、81円台を回復した。
16日	RBA理事会の議事録が公表され、「インフレ見通しを巡るリスクは概ね均衡」「豪ドル高は経済の均衡を複雑化する可能性」「住宅市場にかなりの不確実性がある」「政策金利の据え置きはインフレ、成長目標と一致」などが明らかとなった。
17日	豪10月雇用統計は失業率5.6%、就業者数は前月比0.98万人増(予想5.7%、1.60万人増)。失業率は予想を下回ったが労働参加率が64.4%に低下した影響と見られる。就業者数は予想を下回ったが内訳で正規雇用者が大幅に増加(4.15万人増)する好内容であった。
25日	日経平均株価が18482.94円まで上昇して年初来高値を更新。リスク選好の動きが強まり豪ドル買い・円売りが活発化すると84.618円まで上昇して約7カ月ぶり高値を付けた。
30日	石油輸出国機構(OPEC)の定例総会にて、原油の産出を日量3250万バレルに従来の120万バレル削減する事で合意。原油高とともにNYダウ平均が史上最高値を更新して上昇する中で豪ドル買い・円売りが優勢となった。

# AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	17380.54
HIGH	18482.94
LOW	16111.81
CLOSE	18308.48

## NYダウ平均

OPEN	18158.24
HIGH	19225.29
LOW	17883.56
CLOSE	19123.58

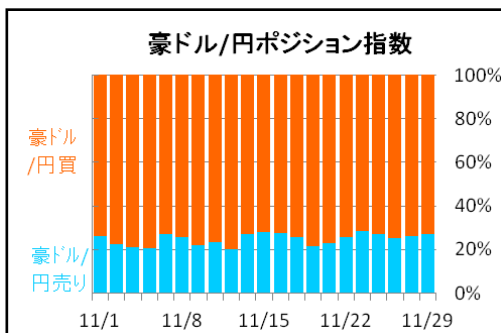
## 上海総合指数

OPEN	3101.664
HIGH	3301.213
LOW	3094.102
CLOSE	3250.035

## 豪10年債利回

OPEN	2.338%
HIGH	2.815%
LOW	2.212%
CLOSE	2.723%

## 11月のポジション動向



## 12月の豪州・中国の注目材料

- ・11月中国製造業PMI(1日)
- ・10月豪小売売上高(2日)
- ・RBAキャシュターゲット(6日)
- ・7-9月期豪GDP(7日)
- ・10月豪貿易収支(8日)
- ・11月中国貿易収支(8日)
- ・11月中国消費者物価指数(9日)
- ・11月中国鉱工業生産(13日)
- ・11月中国小売売上高(13日)
- ・11月豪雇用統計(15日)
- ・RBA議事録(20日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 12月の見通し

トランプ米次期大統領が掲げる財政拡張的な政策が実現すれば、米国で景気上昇が加速するとともに世界的にインフレ率が高まるとの見方が広がっている。こうした中では、株や原油などの資産価格には上昇圧力がかかりやすく、それらと連動する形で豪ドル/円も上昇してきた。資産価格の上昇は豪準備銀行(RBA)による追加緩和観測を後退させるという効果もある。市場でトランプノミクスへの期待が続けば、豪ドル/円は年初来高値(1月4日:87.837円)の更新も不可能ではなさそうだ。ただし、「トランプ相場」にはこうした光の面だけではなく影の面もある事を忘れるべきではないだろう。米長期金利の上昇や米ドル高は新興国からの資金流出懸念を高めやすく、新興国不安は豪ドル安に繋がるケースが多い点には注意を要する。豪州と経済的な結びつきが強い中国などはその筆頭だ。中国当局は足元のドル高局面で人民元安を容認しているが、今のところはこの元安による景気支援効果への期待が資本流出への懸念に勝っている模様。しかし、ひとたび人民元安を市場が不安視する事になれば、今年1-2月のように世界的なリスク回避ムードに発展する可能性を孕んでいる。豪ドル/円が「トランプ相場」の基点である81.00円付近まで反落する可能性も完全に否定する事はできないだろう。(神田)

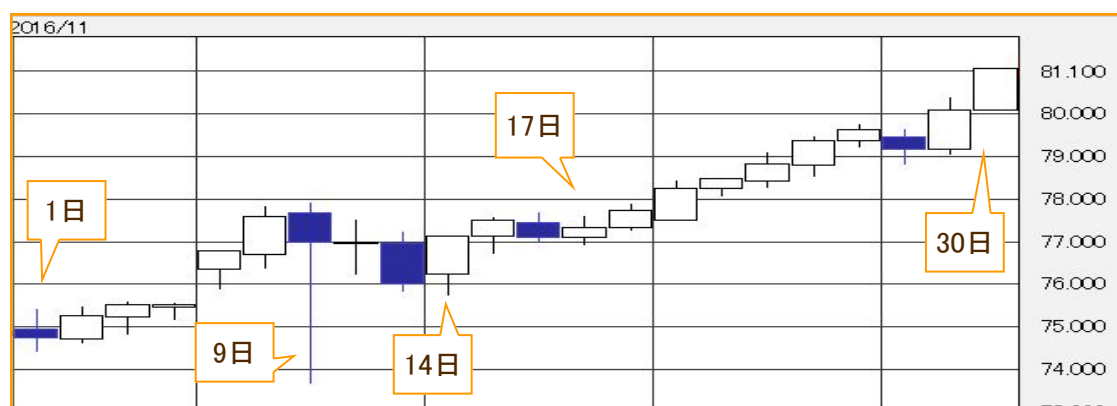
(予想レンジ: 81.000~88.000円)

## NZドル/円 11月の推移

NZD/JPY

11月のNZドル/円相場は73.706～81.066円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約8.2%の大幅上昇(NZドル高・円安)となった。

9日に米大統領選でトランプ氏が勝利後に演説を行い、選挙期間中の過激な発言は影をひそめて全般的に温厚な内容であった事などから、それまでの「トランプ・リスク」が一転して「トランプ・ラリー」に変化して株高が進行。ドル/円相場でドル買い・円売りが強まった影響もあり、NZドル/円は堅調に推移。30日の石油輸出国機構(OPEC)総会での減産合意をきっかけに円売りが活発化すると、1月以来となる81.066円まで上昇した。



## 四本値

OPEN	74.964
HIGH	81.066
LOW	73.706
CLOSE	81.063

1日	「米大統領選支持率でトランプ氏がクリントン氏をリード」との報道を嫌気して、NYダウ平均が一時18000ドルを割ると、NZドル/円は74.465円まで下落。ただ、7-9月期NZ失業率が4.9%、雇用者数増減は前期比+1.4%、労働参加率は70.1%(予想:5.1%、+0.5%、69.7%)となった事を受け、下げ幅を縮小した。
9日	米大統領選の重要州とされるフロリダ州などでトランプ氏優勢と伝わると、日経平均が一時1000円超下落してNZドル/円は73.706円まで急落。しかし、勝利宣言の演説でインフラ整備に言及した他、選挙期間中の過激な発言が影をひそめて全般的に温厚な内容であった事を好感してNYダウ平均が上昇すると反発。その後、NZ準備銀行(RBNZ)が事前予想通り政策金利の0.25%引き下げて1.75%とする事を決定した。声明で追加利下げに含みを残したものの、物価目標の達成には今回の利下げで十分との見方を示した事からNZドル買いが強まると、77.911円まで一段高となった。
14日	前日にNZカンタベリー北部で発生した地震の影響を受け、週明けのNZドル/円は取引開始後に75.770円まで下落。ただ、2011年2月のクライストチャート大地震とは異なり、大きな被害は報告されなかった事から、売りの勢いが一服すると反発した。
17日	NZ乳業大手フォンテラが今年度に生産者に支払う乳価の予想を、5.25NZドルから6NZドルに引き上げると発表。なお、7-9月期NZ小売売上高指数は事前予想通り、前期比+0.9%であった。
30日	RBNZが金融安定報告書を公表し、「オークランドの住宅価格上昇率はここ数カ月鈍化しているが、その持続性は不透明」「住宅市場の不均衡が継続する限り、住宅価格上昇率のさらなる加速は大きなリスク」などが明らかとなった。

## NZD/JPY

## 日経平均

OPEN	17380.54
HIGH	18482.94
LOW	16111.81
CLOSE	18308.48

## NYダウ平均

OPEN	18158.24
HIGH	19225.29
LOW	17883.56
CLOSE	19123.58

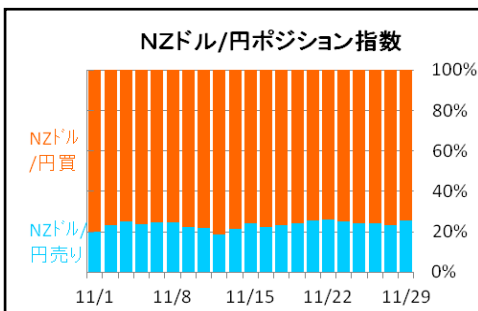
## 上海総合指数

OPEN	3101.664
HIGH	3301.213
LOW	3094.102
CLOSE	3250.035

## NZ10年債利回

OPEN	2.714%
HIGH	3.212%
LOW	2.694%
CLOSE	3.128%

## 11月のポジション動向



## 12月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(6日、20日)
- ・10月NZ住宅建設許可(19日)
- ・11月NZ貿易収支(20日)
- ・7-9月期NZGDP(21日)
- ・7-9月期NZ経常収支(21日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 12月の見通し

先月のNZドル/円は、「トランプ・ラリー」によりドル/円相場で円売りが強まった影響を受け、中旬以降はほぼ一直線で上昇。30日に1月以来の高値となる81円台を回復した。本稿執筆時点でトランプ新政権がどのような政策を取るか不透明である事を考えると、ここまでの動きは期待が先行しているとする事も出来る。こうした中、トランプ氏が北米自由貿易協定(NAFTA)見直しや、メキシコ国境の壁の早期建設などの強硬な政策を前面に押し出すようならば、「トランプ・リスク」が再び意識されてリスク回避の動きとなる事が予想され、NZドル/円に調整が入るきっかけとなり得る。先月のNZドル/円は大きく上昇するも年初来高値に届かず、上値の重さが見られる。こうした中、先月中旬以降下値支持として機能してきた日足の一目均衡表の転換線(執筆時79.767円)を割るようならば、基準線(同、77.480円)に向けて下押しが深くなる可能性がある。

なお、4日にキーNZ首相が辞任を発表した。突然の出来事にNZドルが対米ドルで売られる場面もあったが一時的となっている。12日に開かれる与党・国民党の議員総会で新指導者を選出する予定となっている。(川畑)

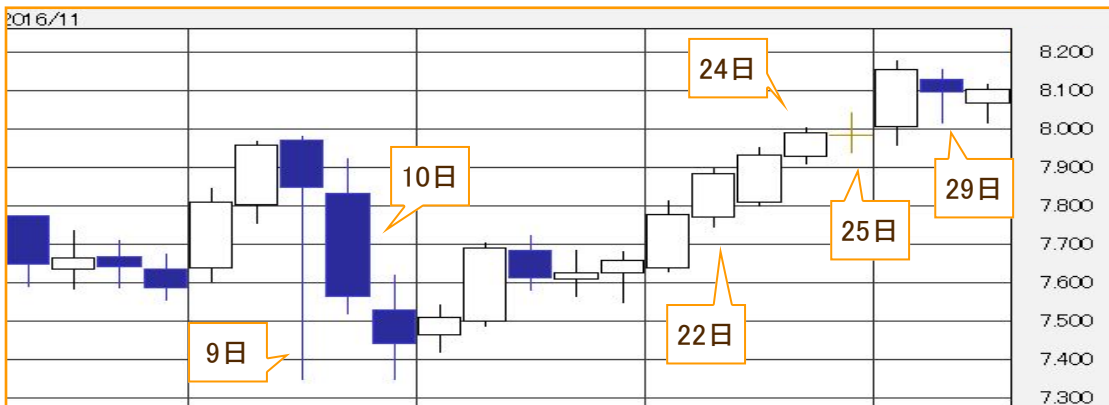
(予想レンジ: 77.500~83.500円)

## ランド/円 11月の推移

# ZAR/JPY

11月のランド/円相場は7.348～8.179円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.4%の上昇(ランド高・円安)となった。

9日に米大統領選でトランプ氏が勝利後に演説を行い、選挙期間中の過激な発言は影をひそめて全般的に温厚な内容であった事などから、それまでの「トランプ・リスク」が一転して「トランプ・ラリー」に変化。主要国で株高が進行してリスクを取る機運が高まった。ドル/円相場でドル買い・円売りが強まった影響もあり、ランド/円は堅調に推移すると、28日に昨年12月以来の高値となる8.179円を記録。ただ、その後は汚職疑惑が浮上しているズマ大統領が退陣する可能性が後退した事が伝わると伸び悩んだ。



### 四本値

OPEN	7.774
HIGH	8.179
LOW	7.348
CLOSE	8.104

9日	米大統領選の重要州とされるフロリダ州などでトランプ氏優勢と伝わると、日経平均が一時1000円超下落してランド/円は7.350円まで急落。しかし、勝利宣言の演説でインフラ整備に言及した他、選挙期間中の過激な発言が影をひそめて全般的に温厚な内容であった。これを好感してNYダウ平均が上昇すると、7.80円台まで下げ幅を縮小した。
10日	南アフリカ国民議会は、公費流用など汚職疑惑が浮上しているズマ大統領に対する不信任案を否決(反対214、賛成126)した。金相場軟調推移も重石となり、ランド/円は7.521円まで下落した。
22日	南ア7-9月期失業率は27.1%(予想:26.6%)と2003年以来となる高い水準に悪化した。
24日	南ア準備銀行(SARB)は事前予想通り、政策金利を据え置いた(7.00%)。クガニャゴ総裁は声明で「インフレ軌道が目標レンジの上限に不快なほどに近いと引き続き懸念している」「利上げ局面は終わりに近いとの見方を維持しているが、上振れリスクが生じれば、考えを見直す可能性がある」などと発言した。
25日	フィッチが南アの格付け見通しを、従来の「安定的」から「ネガティブ」に引き下げた(格付けはBBB-で据え置き)。これを受けてランドが売られる場面があった。
29日	南アフリカの政権与党であるアフリカ民族会議(ANC)内でズマ大統領の退陣を求める声が出る中、ANCがズマ氏を支持する方針を表明した。ズマ氏が退陣する可能性が後退した事からランドが売られた。7-9月期米国内総生産(GDP)・改定値が速報値から上方修正され、ドル買い・新興国通貨売りの流れとなった事も重石となり、ランド/円は一時8.018円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## 日 経 平 均

OPEN	17380.54
HIGH	18482.94
LOW	16111.81
CLOSE	18308.48

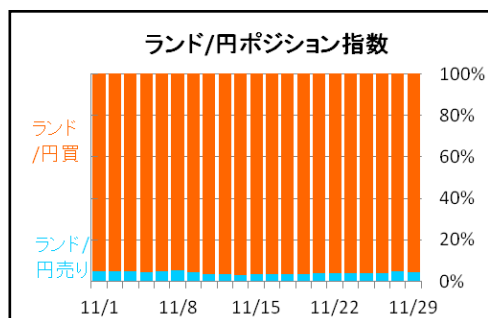
## NYダウ平均

OPEN	18158.24
HIGH	19225.29
LOW	17883.56
CLOSE	19123.58

## N Y 金

OPEN	1277.80
HIGH	1338.30
LOW	1171.30
CLOSE	1173.90

## 11月のポジション動向



## 12月の南アフリカの注目材料

- ・7-9月期南アGDP(6日)
- ・7-9月期南ア経常収支(9日)
- ・11月南ア消費者物価指数(14日)
- ・10月南ア小売売上高(14日)
- ・11月南ア生産者物価指数(15日)
- ・11月南ア貿易収支(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 12月の見通し

ランド/円は11月に入り13週移動平均線が52週移動平均線を上抜いたほか、本稿執筆時点では26週移動平均線が52週移動平均線を上抜く「ゴールデンクロス」が点灯目前となるなど、チャートの形が改善してきている。これにより、2014年11月高値を起点とする下落局面は今年1月安値(6.213円)で一服を迎えたと考えられる。今月2日高値(8.239円)を突破すると、2014年11月高値10.804円～2016年1月安値6.213円の下げ幅の1/2戻し(8.509円)や61.8%戻し(9.050円)が次の目処として挙げられる。

また、10月末に市場の信認が厚いゴードン財務相の訴追が見送られた事や、先月25日にフィッチが、今月2日に格付け会社S&Pが据え置きを発表した事で、目先の格下げ懸念が後退してランド/円の追い風となった模様である。今月南アで発表される7-9月期国内総生産(GDP)について、事前予想は前年比+0.7%となっている。同国のGDPは今年1-3月期にマイナス成長となったが、4-6月期は+0.6%と持ち直している。予想を上回る伸びが示されれば、材料面からもランド買いが入りやすくなると考えられる。ただし、ランド/円相場が年初来高値を更新する中、予想外の弱い材料が出ると利益確定の売りに押される事もあり得る。結果に注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 7.600～9.000円)